20年 東京へのメッセージ ■14

表彰補助員 小池 和子さん

円谷追ったミス・メダル

1964年の東京五輪に「ミス・メダル」と呼ばれた人たちがいた。表彰式で選手にメダルを授与する国際スポーツ界の役員の下へ、メダルを運ぶ。華やかなセレモニーを彩る振り袖姿の女性。正式には「表彰補助員」を、そう呼んだ。

小池和子(75)は国立競技場で陸上競技の「ミス・メダル」を務めた。ハイライトは10月21日、陸上を締めくくるマラソンだった。

ヒーローと涙の抱擁

午後3時すぎ、エチオピアのアベベ・ビキラが2連覇のゴールを駆け抜けた。数分遅れて現れたのが円谷幸吉だ。五輪のメイン競技なのに、日本はメダルゼロ。最後の期待を担った力走だが、英国のベイジル・ヒートリー(83)に抜かれた。疲労の色が濃い。表彰式を控え、トラック横にいた小池は思わず和服のまま追いかけた。「頑張れ」。声をかけらした。

円谷が3位でゴールすると、国立競技場の悲鳴は安堵（あんど）に変わった。「体力が違った。円谷さんは疲労困憊（こんぱい）。でも国中がどれだけ喜んだことか。敗戦から立ち上がって頑張った五輪だったから」

表彰式では黒塗りのお盆にメダルを載せて運んだ。表彰台の銅メダリストはこわばって見えた。式典を終え、緊張が解けた円谷が泣きだした。涙は小池にも浮かんだ。ヒーローと抱き合って喜びをともにした。

父親の苦悩を感じていたことが背景にある。36年ベルリン五輪三段跳び金メダリスト田島直人が父だ。東京五輪は陸上のヘッドコーチを務め、不振を責められていた。

母の麻も戦前の代表で、日本初の五輪選手夫妻の長女が見た父は「スポーツに対する考え方が根本的に違う人」だった。「楽しいから競技をやる。その先に栄光があり、栄光のためにやるのではない」と純粋なアマチュアリズムを胸に秘めた人が、64年の国家的な熱気の中、非難に耐えた。「ドラマチックな言葉は発しない寡黙な人。どれだけ喜んだか」。国立競技場に揚がった日の丸に父子の感慨が重なった。

和服で歩行訓練

陸上の「ミス・メダル」は五輪前年に集められた。関係者の15歳から20代の娘が十数人。和服での歩行が乱れないよう、毎月訓練があった。日本舞踊のお師匠さんの稽古場でお盆をささげ、すり足の練習など。慣れない着物姿で「エレガントに歩かなければならなかった」。国立競技場でも実地練習をした。

外国語が堪能な接待役と違うボランティアで、「仲間という意味から自分たちで『コンパニオン』と名乗った。思いつくことをじゃんじゃんやった。自由だったんですよ」。もちろん「みな〝偉いさん〟の子どもでしょ。ペコペコしないですんだ」と立ち位置を客観視し、屈託がない。世界への扉を開ける五輪であり、立場を超えて力を合わせた。子どもたちは「親をバックアップしようと。無給が自慢でした」。

接待や国際スポーツ会議の受付など雑用も。ロイヤルボックスへ「裏千家の宗家がたてたお茶を運んだこともあった」。公募コンパニオンで長嶋茂雄夫人となった故亜希子さんとも仲良くなった。

表彰式以外は貸与された青いブレザーで動き回った。高価な振り袖と帯は、都内の各デパートが競って提供したそうだ。

聖心女子大を卒業した年に現場で五輪に触れ、翌年結婚して兵庫県に住む。最近まで世界的な華仕団体「キワニスクラブ」の日本代表を務めた。小池の五輪を見る目に懐かしさと懸念が交じる。「前の東京は本当にいい五輪だった。金まみれじゃないアマチュアリズムの最後の祭典。あのときの日本人は貧しかったが、大会を成功させようと一つになった。次の東京が大きな五輪になるなら違和感がある。けばけばしい大会にはなってほしくない」（敬称略、共同通信編集委員　小沢剛）

※次回は7月21日に掲載予定です。

東京五輪マラソンの表彰式。左端でお盆を持つ和服姿が小池和子。表彰台は（左から）銀のヒートリー、金のアベベ、銅の円谷＝1964年10月21日

メッセージ

小池和子　次の東京五輪では、お金は本当に必要な物に使って、実のある大会になることが願いです。スポーツの祭典なのだから、選手の才能が存分に発揮できる大会にしてほしい。そうなれば私たちの心が打たれるし、感動できる大会になれば印象に残る。前回は日本が一つになり、本当にいい国だと思った記憶がある。

そのためにも日本が無事で、世界が平和であってほしい。前回東京大会では開会式でハトが飛んで平和を実感した。いろんな所でけんかしていたら、五輪などできない。

国立の日の丸に父子感慨

当時の青いブレザーを着る小池和子＝6月8日、兵庫県西宮市の自宅

五輪前に父の田島直人と話す小池和子（本人提供）

100

【広島―巨人14回戦】7回広島無死、丸が左越えに決勝の本塁打を放つ＝マツダ

3回、通算100本目を放つ

打だった。1―2の三回、中堅左へ豪快な同点ソロ。「まさか打てるとは思っていなかった。うれしいけど通過点」と話したが、巨人に2試合連続で敗戦。「またその次が大事」といつものように気持ちを切り替えた。一打席一打席で全力を尽くした結果が、チームに勝利をもたらした。

京田に 中日3

中日 4―3 ヤクルト

中日は打線がしぶとくつないで得点をもぎ取り、接戦を制した。今季3度目の同一カード3連戦3連勝。森監督は「1点ずつ取って守り切ろうと思っていた。いい方に向いてきている」と目尻を下げた。

攻撃の中心にいたのは1番京田（青森山田出）だ。4戦連続で一回に安打で出塁すると、亀沢の左前打と暴投で三塁に進み、ゲレーロの三ゴロで生還。三回も左前打を放ち、ゲレーロの二塁打で本塁を踏んだ。

同点とされた直後の六回は1死一、三塁で打席へ。「バットに当てないと何も起こらない」と積極的にスイング。平凡な二ゴロだったが、この間に決勝点が生まれた。

2安打1打点2得点の活躍で打率は再び2割9分台に。新人王候補にも挙がるルーキーは「意識はする」と色気をのぞかせた。これでナゴヤドームでは7連勝。京田は「今は負ける気がしない。僕が塁に出てかき回していきたい」と力強く言った。

【中日―ヤクルト13回戦】京田が勝ち越しとなるニゴ

秋山3安打 西武逆転○

西武 7―6 日本ハム

西武の秋山（八戸大出）が3安打4打点でチームを3連勝に導いた。0―1の三回に右越えの2点二塁打を放つと、4―5の六回1死二、三塁では宮西から2点適時打を放ち、再び試合をひっくり返した。「自分の打撃をすることだけに集中していた」と胸を張った。

絶好調に映るが、6月28日のロッテ戦から7月3日の日本ハム戦まで19打数連続無安打と苦しんだ。強く振ってヒットにするイメージで打席に臨んでいたことで「本能的にボールに強くコンタクトしてしまう」と力みが打ち損じにつながっていたという。

「少し力を抜いてタイミングを合わせる」と修正。4日に続いて2試合連続で3安打をマークし「悪かったころに比べると状態はいい」と表情は明るい。この日3本目の安打となった六回の逆転打も左投げの宮西の肩口から外角に逃げるスライダーを強振せず「前進守備の内野の後ろまで持っていこう」と中前に落とした。

シーズンの折り返しを過ぎたところで、打点を43とし、これまで最多だった昨季の62を更新する勢いだ。今季の秋山は確実性に加え、勝負強さも備わっている。

（18時・ナゴヤドーム）
大野 ウィーランド
阪神―巨人
小野 マイコラス
（18時・甲子園）

（18時・ほっともっとフィールド神戸）
辛島 菊池
オリックス―ロッテ
山岡 澤井

セ・リーグ公示（6日）
【支配下選手登録】
▽ヤクルト　リベロ内野手
【出場選手登録】
▽巨人　畠世周投手
▽DeNA　飯塚悟史投手
【同抹消】
▽巨人　辻東倫内野手
パ・リーグ公示（6日）
【出場選手登録】
▽日本ハム　田中豊樹投手、石川直也投手、岡大海外野手
▽西武　ファイフ投手
【同抹消】
▽ロッテ　佐々木千隼投手
▽楽天　釜田佳直投手

セ・リーグ

【巨人】	打安点振球本	打率
⑨④ 長野	4002 1④	.267
⑥ 本	4110 0	.216
④⑥ 坂本勇	4201 0⑧	.327
③⑤ 村田	4220 0④	.278
⑧⑦ マギー	4100 0⑧	.298
H② 陽岱鋼	4000 0②	.266
H① 中井	3000 0③	.223
1H 亀井	1001 0①	.195
1 小林	3210 0	.194
H 立岡	0000 1	.211
1 畠	2000 0	.000
1H 高木勇	0000 0	.000
1H 吉松	0000 0	.000
1 西村	0000 0	―
1H 桜井	0000 0	―
H 森福	0000 0	
H 阿部	1001 0⑩	.247
犠盗失併残		
1 1 0	5348 4	52 .241

【広島】	打安点振球本	打率
⑥ 田中	3210 2③	.284
犠盗失併残		
1 0 0	8331 2	42 22

【中日】	打安点振球本	打率
⑥④ 京田	4210 0①	
⑧⑦ 亀沢	4200 0②	
⑦⑨ ゲレーロ	3120 1⑫	
③1 大島	3200 1①	
2⑤ 藤井	4111 0②	
R5 3	4100 0	
谷	1000 0①	
② 松井雅	3100 0①	
1① 田島	0000 0	
H 松井佑	1100 0④	
1 伊藤	0000 0	
1 小川	0000 0	
5 堂上	1000 0①	
犠盗失併残		
1 0 1	3733 8 2	2

青木、大リーグ

【アトランタ】大リーグは5日行われ、アストロズの青木がアトランタ戦に途中出場し、勝ち越しにつなぐ